

【報告】『第2回 のみ SDGs 専門分科会』



10月27日(水)に、「第2回のみSDGs専門分科会」を開催しました。

会の冒頭、能美市SDGs推進本部長である井出市長から委員の皆さまに、この度の専門分科会へのご協力についてあらためて御礼を述べるとともに、市内の小学校でのSDGsに関する授業を紹介しつつ「SDGsを難しいものと考えるのではなく、やさしく親しみがあるという観点で様々な議論・提案をいただきたい」と述べました。

続いて、北陸先端科学技術大学院大学産学官連携推進センター長の山本外茂男教授より、本年3月下旬に行った「地域や暮らしに関する市民アンケート調査」の結果を説明いただきました。

特徴として、能美市に住む人の「生活満足度」について、0 から 10 の十一段階で尋ねたところ、6 以上と評価した人が全体の 55.8%に上ったことなどが共有されました。



分科会ごとに分かれて行った意見交換の時間では、第1回での議論を踏まえながら具体的なディスカッションを行いました。

<情報発信分科会で出たアイデア、意見（一部抜粋）>

情報発信分科会では、第1回の分科会で出た、「ホームページの方向性を決める必要があるのではないか」という意見を基に、ホームページの方向性を検討。さらに、その方向性を具現化するためのコンテンツや見せ方の案について意見をいただきました。

HPの方向性について

- ・HPに知り合いや家族、特に子どもが載っているとSDGsに直接関心がなくても「見ようかな」という気持ちになる。人の顔が見えるようなHPにできると良いのではないか。

- ・身近な取組がSDGsにつながることを紹介し、SDGsに取り組むハードルを下げられると良い。

- ・能美市で企業や団体がすでに行っている取組を見える化することが大切。

・「お人柄プロジェクト」は、能美市を支える「人」を大切にしたい、という狙いもある。能美市の「人」が見えるよう、文章だけでなく、写真などを用いながら「人」を感じられるHPにしたい。

HPのコンテンツ・見せ方の案

- ・トップページに市民の顔写真を掲載する
- ・パートナーシップ制度に登録した企業や地域団体によるSDGsにつながる取組を、能美市の地図上に表示
- ・能美市の現況を数字、グラフ、インフォグラフィックスなどで表示

<パートナーシップ制度分科会で出たアイデア、意見（一部抜粋）>
パートナーシップ制度分科会では、第1回の意見を基に事務局で作成した素案を確認。素案を起点に制度設計上の課題や、登録を促すための仕組みなどについて議論しました。

制度設計について

- ・制度に登録・宣言した企業を能美市が各種メディアで紹介宣伝する、マークを表示するなどのインセンティブがあると良い。
- ・企業と市民の交流の場を設計できると、企業活動に市民の意見を取り入れられ、市民のSDGsへの参加促進につながる。
- ・登録した企業同士のマッチングなどを促進するコーディネーターが必要ではないか。

パートナー制度の内容、取組について

- ・まずは企業活動とSDGsとの関連性を認識させる必要がある。講師を派遣し、SDGsに関する知識を深める勉強会を、会員向けに行ってはどうか。
- ・インセンティブで企業を集めるというよりは、交流イベント、マッチング機会をより多く提供し、自然と集まってくるシステムを構築した方が良いのではないか。
- ・当面の間は、パートナー登録のハードルを下げても間口を広げておき、講師を派遣するなどして知識を深めてもらい、その後、取組を認証・評価していくなど段階的に制度を作ることも可能ではないか。

<のみ指標分科会で出たアイデア、意見（一部抜粋）>

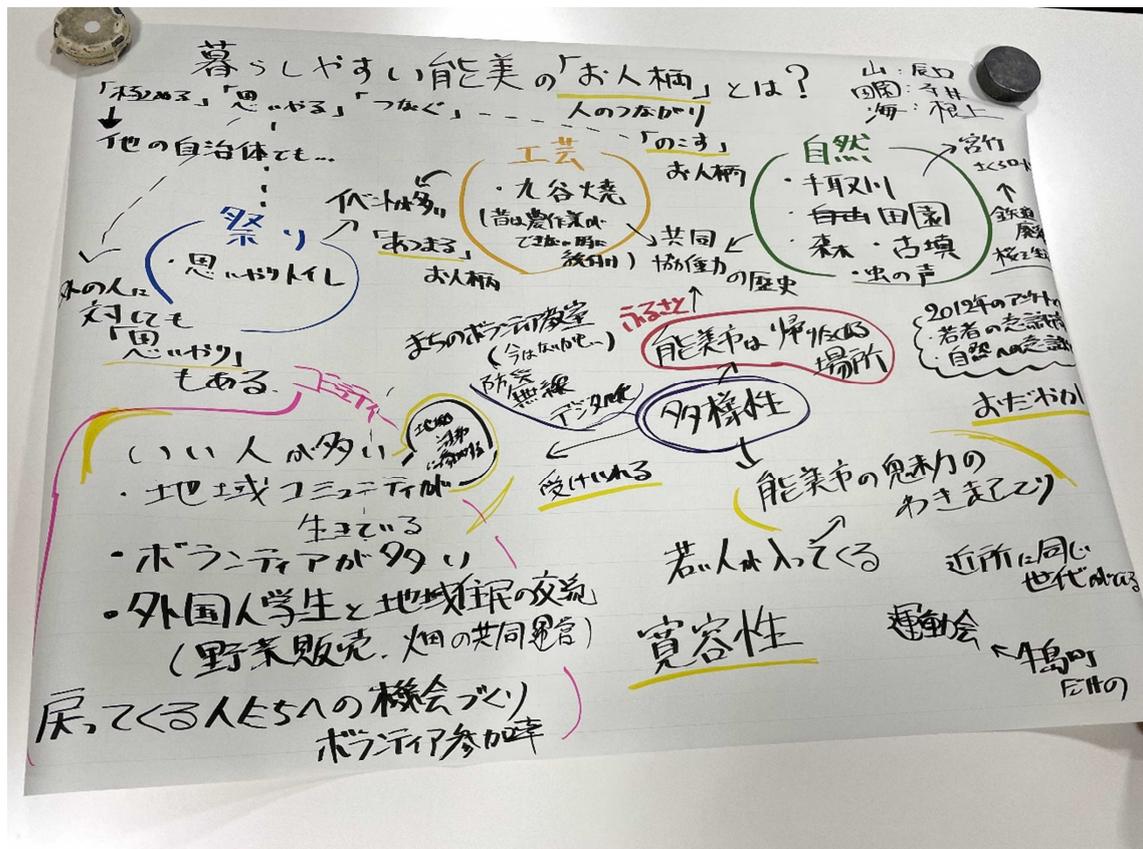
のみ指標分科会では、具体的な指標を考える前に、今一度、能美市の中で「変化を起こしたい部分」「変化させず、守りたい、維持したい部分」はどこなのかを、「お人柄」を軸にして考えました。

どのような「お人柄」が能美市にはあるか？

- ・地域のお祭りの際、遠方から来た方にトイレを貸し出す取組があるが、そのように外から来る人を受け入れる寛容なお人柄はあるのではないかな。
- ・農作業など、日常生活で自然と周囲と共同する姿が受け継がれている。
- ・外国から来た方、移住した人が多いこともあり、地域コミュニティを市民全体で考えていくお人柄があると感じる。

伸ばしたい「お人柄」や不足している「お人柄」は何か？

- ・能美市に残る自然・伝統を守っていくために、次世代に残そうと思えるお人柄が今後さらに必要だと思う。
- ・新しいイノベーションや、新しい考えがどんどん生まれるようなお人柄があると良い。
- ・子どもたちに家庭以外の居場所を提供するなど、健康と福祉の視点はもっと必要だと感じている。



それぞれの分科会では、別の分科会で扱っているテーマについても触れながら相互の連携を提案いただく声もあり、今後の具体的な展開も視野に入れながら議論ができたのではないのでしょうか。

また、どの分科会でも能美市の課題だけでなく「能美市の資源」「能美市の魅力」に言及がありました。今後の専門分科会も、能美市が持つ魅力や資源をSDGsの文脈で今一度、捉え直しながら、さらに良い能美市をつくっていくために建設的な議論を続けていきたいと思います。